

\*\*\*\*\* メリークリスマス 1997 \*\*\*\*\*

ご無沙汰しております。皆さんお元気で過ごしのことと思います。

今年は私達にとって、仕事面でもプライベートでも色々なことがあった年でした。（まだまだ来年も続きそうですが。）まず、仕事の方では、去年の12月末に由紀子がオーストラリアのモナシュ大学の仕事をとることにし、今度の3月から赴任することになりました。一味も同大学で仕事をするということになりいっしょに行きます。といっても、オーストラリアには行ったことがありませんし、やって行けるかどうか分からないので、取敢ずアメリカの大学を休職するという形で行くことにしました。（アメリカの大学では他の大学に移るときにすぐやめなければいけないということはないのです。まあ、カンガルーとよく相談して決めるつもりです。）それで由紀子は今年の秋から、一味は来年の一月から一年間こちらの大学から休職することになりました。モナシュ大学はメルボルンの郊外にあります。メルボルンはとてもいい所だとだれもが言いますので、皆さん機会があれば遊びに来て下さい。一月末にはオーストラリアにわたりますが、住むところは行ってからさがすので、当面の住所は下記の大学の住所になります。（グレートバリアリーフ、タスマニア、コアラ....ふーん、オーストラリアの北のほうも面白そうだなあ.....）

Department of Japanese Studies  
Monash University  
Clayton, Victoria 3168  
Australia

6月から7月にかけて、コロンビア大学の夏期日本語教育プログラムで教える機会がありました。由紀子は第二言語習得について、一味はコンピュータの応用についての講義を二週間ずつし、ニューヨークでの都会の生活をちょっぴり体験しました。慌ただしい仕事でしたが、世界の色々な所からやってきた熱心な日本語の先生達に会うことが出来ました。8月からは一味は通常どおり仕事に戻り、既に休職中の由紀子はラフィエットで自分の勉強に専念しました。恩師の牧野先生と以前から執筆していた大学生向けの初級日本語の教科書の完成が目前に迫り、出版社とのやりとりが頻繁に今でも続いています。（教科書の名前は「なかま」となりました。この名前覚えておいてください、後でまた出てきますから。）完成品を手にするのが楽しみです。と同時に、第二巻の執筆に追われる毎日です。

プライベートな面での大事件は一味が遂にゴルフを始めたことです。これは春先に与口さんというお友達から使っていないクラブのセットを頂戴したことに端を発しました。それではということでまず先生探しを始め、運よくメアリー・マーフィさんという元LPGA ツアープロと知り合いになることができ、毎日ゴルフを練習する日々が始まりました。（メアリーは91年の女子USオープンで5位に入っています。夏の間は毎日100球打つことにして練習しました。9月のレーバーデーウィークエンドには、3日間で4ラウンドしました。完全にはまってしまいました。）また、シカゴで行われたウエスタンオープンというプロトーナメントを観戦することもできました。優勝したタイガーウッズを始めトッププロのプレーを堪能しました。（これはすごかったです。色々なプロのティーショットのボールの位置が股間を通して確かめられるぐらい近くで見えてきました。）来月のオーストラリアは真夏ですから、またゴルフが出来ます。（しめしめ）今年は110を切るのが目標でそれは達成しましたから、来年は100を切るつもりでやってみます。

八月にはカナダのビクトリアに友人のスティーブ、加賀さんと共に旅行に行きました。とてもきれいな所で日本でいう民宿のような所にとまりとてもアットホームな旅行でした。（ビクトリアはシアトルのそばで本当にきれいなところですから、機会があったら是非お出かけください。）

九月からは一年間のお休みをもらった加賀さんがラフィエットに来て共同生活を始めました。一味のコンピュータの授業を聴講しながら自分のプロジェクトをすすめています。ちょうど、加賀さんが来たすぐ後で、板前さん件ゴルフ友達の浅井さんがそれまで働いていたレストランを辞めることになり、長谷川健司、リンダ夫妻の力を借りて、何とかならないものかと奔走し、その結果、浅井さんが新しいレストランを始めるお手伝いをする事になりました。物件探しに始まり、由紀子が会社設立の書類、売り手との交渉、一味はメニュー作り、健司さんは内装、加賀さんはレストランのマークのデザイン、最後には大学の同僚の駅田さんやゴルフの先生も駆け付けてくれて、未知の世界で七転八倒しましたが、2か月で「なかま」と名付けた新しい店の開店までこぎつけました。（教科書の名前覚えていますか。）11月には浅井さんの家族もカリフォルニアから来ました。11月30日のオープニングは直前までみんな金づちやペンキを持って走り回っていました。（開店直前の状態は本当にテレビのトレンドードラマの第一話を見ているようでした。さて、これから2話、3話とどうなるでしょうか。お楽しみに。）前のオーナーのエディも毎日手伝ってくれています。ありがたいことに、出だしはまずまずです。大変でしたが、大学の職員としての生活の中では出会うことのない人達とたくさん知り合うことができ大変貴重な体験でした。

というわけで、いろいろなことが一年間でした。来年はいきなりオーストラリアへの引越から始まるという慌ただしい一年になりそうですが、行ったことのない所への期待が日をおって高まりつつあります。皆様どうぞよいクリスマスとお正月をお迎えください。（やっぱり、今年は1ページではおさまりませんでした。さて、また教科書の原稿のタイプ打ちにもどります....)

\*\*\*\*\* 頌春 1998年 \*\*\*\*\*

加賀真理子氏デザイン